

洪水や津波の被害を受けた《視聴覚メディア》の応急処置

映画フィルムも磁気テープも耐水性が低く、泥水から深刻な被害を受けます。被害の受け方も、さらなる悪化を防ぐ方法も、メディアの種類によって若干異なりますが、何れにしても〈迅速に〉しかるべき処置を施すことによって、被害の進行を抑制できます。だからといってコレクションの救出を試みて、あなたの身が危険にさらされるようなことがあってはなりません。洪水や津波の直後は予測できない二次災害が起こり得ます。水損メディアには生物学的／化学的に危険な物質が含まれることも考えられますので、衛生面にも十分注意してください。

オーストラリア国立フィルム&サウンドアーカイブ (NFSA) は、被災したメディアの状態を悪化させないために有用な情報を提供し、かけがえのないメディアを蘇らせるお手伝いをさせていただきます。

ここに書かれている以上の作業を専門家の助言なしに進めることは困難です。視聴覚メディアはとても脆弱で、扱いを誤るとすべてが台無しになってしまうこともあります。ほとんどの損失は〈水害の後で起こっている〉ことを忘れないでください。つまり、応急処置を施し、専門家の助言を仰ぐことこそが、貴重なメディアを守り、蘇らせるために最も確実な方法なのです。

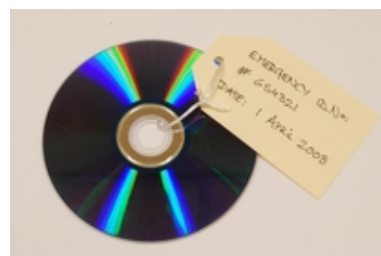
Step 1. そのメディアは海水／汚水／泥水に直接触れたでしょうか？

まず、そのメディアが本当に水に濡れているか／濡れていたかを確認めます。なぜならフィルム缶やカセットテープのケースなどが防水の役目を果たすことも少なくないからです。濡れていないなら心配ありませんが、湿気によって発生しやすくなるカビなどに注意しましょう。

Step 2. 箱書きやラベルなどはありますか？

次に、そのメディアに何か固有の情報があるかどうか調べて、記録を残します。メディア自体、あるいはその容器に書かれた情報は、消えてしまったり読みづらくなったりしていることも考えられますが、些細な情報でも必ず記録を残しましょう。中身のわからない“オーファン”CD などには、何らかの番号や名称を与える必要があります。

“オーファン”CD に紐で名札を取り付ける▶



Step 3. 選別方法は？

おそらく救済の段階で、メディアに優先順位を付ける必要が生じます。とはいえ、コンテンツがわからない中で特定のテープやフィルムを選び取るのは至難の業でしょう。そこで、ここでは視聴覚メディアを救済し、その状態の悪化を抑えるためにできることを簡単に説明します。ただし以下で説明する作業は〈コンザベーション〉と呼べるレベルにはありません。メディアを再生するなら、その前にさらに詳しく調べるか、できることなら経験豊かな専門家に作業を委ねてください（詳しい情報は NFSA または AICCM の HP に掲載しています）。

[フィルム]

水害を被ったフィルムの生物学的なダメージの内、最も深刻なのは〈カビとバクテリア〉によるものです。カビもバクテリアもあつという間にフィルムを損壊する威力を持ち、人体にも悪影響を与える場合があります。もしフィルムがカビに覆われているなら、何があっても素手で触れないように、また、その胞子を吸い込まないように注意してください。



◀バクテリアの被害を受けたフィルム

汚水に浸かったフィルムは、入手できる限りの清潔な水ですすいで泥など付着物を落とします。何らかの識別システムを構築するため、フィルム1本ごとに固有の名称を与えます（既に付いている題名を使うこともあれば、コンテンツなどから新たに仮称を与えることもあるでしょう）。〈冷凍庫〉が使用できる環境があれば、フィルムをフリーザーバックなどに入れ、しっかり密閉し、袋にラベルを付けて冷凍します。冷凍庫がなければフィルムをバケツの冷水に浸し、毎日その

水を新しくしてください。これによってフィルムはおよそ2週間保ちますが、それ以上経つとバクテリアの被害を受ける可能性が高まります。

蜘蛛の巣や泥などが付着したフィルム▶

さらなるダメージを回避するため、たとえ外見の状態は悪くなくても、水に浸かったフィルムの巻きは解かないでください。くっついているフィルムを無理に引き出すと、取り返しのつかない損傷につながる場合があります。専門家の助言なしにフィルムを乾かすことも危険です。



[磁気テープ (VHS テープ、カセットテープ、オープンリールなど)]

磁気テープにはカビが発生しやすいので、扱うにはやはり健康に留意してください。しかしながら、何より先に深刻な問題を起こすのは〈バインダー〉と呼ばれる部分の劣化です。MiniDV は様々な素材から成り、その何れもが水に弱いため、水害を被った MiniDV の回復率はあまり高くありません。ある程度の損失は覚悟してください。汚水に浸かった磁気テープは、出来る限りきれいな水ですすぎます。このとき、できることなら水道水でなく、ペットボトルの水か蒸留水を用意してください。水道水の〈塩素〉はテープに悪影響を及ぼすことがあります。



◀カビの生えたVHS テープ

ラベルが剥がれてきたり、完全に剥がれたりすることもあります。ラベルとテープ本体がばらばらにならないようにします。固有の識別情報がなく、再生してコンテンツを知ることもできない場合は、識別できるような仮称や番号を与えます。さらなるダメージを回避するため、テープは冷暗所に保管します。ただし、冷凍はしないでください。無理に乾かすのは逆効果です。可能であればテープが乾ききる前に専門家の元に届けてください。「大丈夫かどうか確かめる」ためにテープを再生すると、テープが損傷を受けるだけでなく、再生機まで壊れてしまう危険があります。

泥の付着したオープンリール▶



[ディスク (LP レコード、光学ディスク類=レーザーディスク、CD、DVD、ブルーレイなど)

ディスク類は汚水に浸かってすぐ損壊することはありませんが、長く放置しておくと影響が出ます。カビが生えることもあります。それはディスク自体というより、むしろライナーやジャケットなどが受ける被害です。カビに覆われていたら、素肌の接触を避け、胞子を吸い込まないようにするなど注意を怠らないでください。ディスクはできる限りきれいな水ですすぎます。LP レコードの中央のラベルが剥がれかけたり、完全に剥がれたりしても、ラベルと本体とが離ればなれにならないようにしてください。すすいだ後は、埃をかぶる心配のない場所で自然乾燥させます。LP レコードは、再生前に必ず洗浄してください。すすぐだけでは落ちにくい泥などの付着物を落とそうとして、LP レコードの表面を擦ったり拭いたりしてはいけません。CD の場合、表のラベル面が最も重要な部分を保護する役目を果たしています。そのラベル面が汚水の被害を受けやすい素材でできていることがあるので、擦ったり拭いたりしないでください。無理に乾かそうとしてはいけません。例えばホームムービーを記録した DVD などのディスクにはラベルが付いていないことが多いので、紙片などを使って一時的なラベル代わりにしてはどうでしょうか。権利的に複製が許されている CD や DVD (例えば非営利目的のもの) は、コピーを作成すべきです。